AEDに関する指導計画一覧

	心身発達特徴	予想される学校安全上の問題	AEDに関する指導上の重点目標	教科・領域等との関連				教材等
				生活	社会	保健	特活	
1年生	物事の因果関係の理解能力が発達する。	①見えるものは危険と判断できる。明確な危険が見えない場合は、安全だと判断してしまう。 ②学んだ知識が、必ずしも行動に結び付かない。 ③学習経験を一般化する力が弱く、学んだ規則や法則性を、他の類似場面にあてはめて考えることが難しい。	AEDは命を守る道具であり、学校内に2か所設置されていることがわかる。	6月「がっこうたんけん2」				学校にあるAEDの写真（設置場所含む）
2年生			AEDは命を守る道具であり、学校外にも設置されていることがわかる。（生活・特活）	11月「町たんけん2」			4月「教室や廊下での安全な過ごし方」	学校外にあるAEDの写真（設置場所含む）（市立図書館・石川消防署・石川高校・伊波中学校・スーパー・クリニック）
3年生	ヒヤリハット体験など、様々な経験を通して、危険に対する判断や対処能力が身についてくる。	①行動範囲が広がり、大人の目の届かない場所へも遊びに行く。 ②未知の場所での危険予測や判断が難しく、事故に遭遇する可能性がある。 ③大人の行動を客観的に見る。モデルとなる大人の良し悪しによって影響を受けやすい。	①学校内で大きなけがが起こった場合、大切な行動として、「周囲の助けを呼ぶ」「大人の指示に従って、119番通報やAEDを運ぶなどの手助けができる」ことがわかる。（特活） ②地域の地図に、AEDの設置を加えたマップを作ることができる。（社会）		5月「わたしたちのまちはどんなまち」 10月「店で働く人と仕事」		4月「学校内での安全な過ごし方」	119番通報の仕方 AEDの運び方
4年生			学校や地域の安全を守る人について知り、消防署見学等を通して、AEDの働きや救命の連鎖（119番通報）について知ることができる。		5～6月「安全なくらしとまちづくり」			AEDの働き 119番通報の仕方 注）消防署見学の打ち合わせの際に確認する。
5年生		「ギャングエイジ」の時期に入り、仲間への所属感を求める気持ちが高まり、危険な行動が一層過激になる恐れがある。	自他の生命を守るためには、安全な行動や健康な生活が重要であり、大きなケガや病気の時に、AEDが使われることを知る。 救命の連鎖の大切さを知る。			1～2月「けがの防止」		AEDが必要な「心臓突然死」、心臓の働き 救命の連鎖（4つの勇気）
6年生			自他の安全を守るために行動し、緊急時には、AEDの使用を含めた心肺蘇生法に協力することができる。そのための知識と技能を身に付ける。				5月「学校での安全な生活」	心肺蘇生法実技講習（指導案、パワーポイント資料、スクーマン2、小学校安全教育副読本）